

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

橋本市立応其小学校 教諭 和田 剛志

1. 単元名 「応其・高野口の町の歴史と未来を考える ～パイルの町 高野口～」

2. 単元の目標

- 応其・高野口の産業について考え、そのよさと課題について理解し、身近な人や地域に伝わるようにプレゼンテーションにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 工業推移のグラフや、ゲストティーチャー、地域の方の話をもとに、現在に至るまでの変化を知り、多くの人にパイルの歴史とこれからを知ってもらうための手立てを考えたり、プレゼンテーションにまとめ伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 地域の産業を多くの人に知ってほしいという目的意識をもち、意欲的に地域の方、企業の話を知ったり、町の工場について情報を集めたりし、パイル産業について学んだことをプレゼンテーションする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、社会科の「工業生産とわたしたちの暮らし」と関連付けて考え、今でも世界を支えている産業が地域にはあることを教材として取り上げる。

応其小学校校区には、たくさんの工場跡がある。繊維産業で栄え、繊維染色と織物で有名な町だった。だが現在は廃業してしまった工場が多い。児童の保護者（祖父母）にも工場を経営していた人がいる。何気なく毎日通っている通学路に日本を代表する産業が隠れていることを知らない児童は多い。学習を通し地域の産業を知るだけでなく、家族に話を聞いたりゲストティーチャーや地域の方、企業の方とのコミュニケーションを通したりして、人との関わり方についてのスキル向上も図ることもできる。

また、農業がさかんな地域でもあることから、第一産業にばかり注目されているが、第二産業の中心地であることに驚くのと同時に、地域をもっと好きになってほしいと考えている。主体的に学習し、得た知識を多くの人に知ってもらおうとすることで、工夫してプレゼンテーションを仲間とともに制作し、より良く伝えるために何をすればいいか考え活動することができるようになるよさがある。

(2) 児童観

本学級の児童は、第3学年において、町探検として地域の神社や小田井の堰といった歴史を橋本市のボランティアガイドの方と見学する活動をしてきている。しかし、地域社会や地元の出来事に対してまだ漠然とした理解しか持っていない。地域産業が家族や友達、学校との繋がりがあつるものと理解すれば、より興味を持って学習に取り組むことができるだろう。

新しいことに対する好奇心が旺盛な児童が多く、学年の取り組みとしてビブリオバトルに取り組

み、人の前に立つことの楽しさを児童は実感できている。そういった力を一層育てるためにも、学んだことをアウトプットすることに取り組みさせていきたい。

(3) 指導観

地域の産業が衰退している現状に気づき、その解決策を考え、行動に移す力を育てることが目標である。繊維業を通じて、地域の大切な産業を知り、次の世代に引き継ぐことの大切さを理解させたい。

まず、工場見学や資料館見学を通じて、実際に繊維製品が作られる様子や歴史を学ぶ。教室での学習では得られない現場体験を通して、子どもたちは地域産業の重要さや魅力を感じさせたい。工場では、製品がどのように作られ、どんな技術が使われているのかを見て、繊維業が現在も地域の大切な一部であることを実感させ、より身近に感じることをできるよう場をしたい。

次に、資料館では繊維産業がどのように発展してきたかを学ぶ。地域産業の浮き沈みを知ること、繊維業がなぜ衰退してきたのかを考えさせる。また、過去と現在の技術や製品の違いを知り、繊維業が今後どう進化していけるかを考えるきっかけとする。

さらに、ゲストティーチャーや工場見学、繊維業の仕事をしている人を招き、現場のリアルな声を聞かせたい。子どもたちは、繊維業に従事する人がどんな思いで働いているのか、どんな困難や工夫があるのかを知り、産業の大切さをさらに理解する。現場の課題やそれをどう解決していくかについても考えさせる。

指導の最後には、子どもたちが自分たちで「地域産業を盛り上げるアイデア」を考え、実行できる計画を立てさせる。これにより、地域の一員として自分がどう貢献できるかを考える力を育てる。

この指導を通して、繊維業は過去の産業ではなく、地域の未来を支える大切な資源であることを学ばせる。工場や資料館、ゲストティーチャーとの交流を通じて、子どもたちに繊維業の価値を実感させ、地域を支えるために自分たちができることを考えさせる。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・自分たちの地域と他の地域の産業を比較し、地域による違いや特性を知る。地域社会の多様性に気づかせ、工場や資料館見学を通して、過去の技術と現在の技術の違いを学ぶ。

連携性・・・グループ活動を通じて、子どもたちが互いに協力し、意見を出し合って課題解決に取り組む力を養う。地域の産業や企業と学校が協力し、現場の学びを通じて、持続可能な社会を支える力を育てる。

・学習を通して主に養いたいESDの資質・能力

・進んで参加する態度

地域の繊維産業の現状と歴史を学び、持続可能な地域社会を築くための意識を高め、自ら行動する力を育てたい。学んだことを基に、自分たちが地域にどう貢献できるかを考え、実行する力を養う。

・コミュニケーションを行う力

工場や資料館見学、ゲストティーチャーとの交流、グループ活動を通して、他者と協力しながら課題に取り組む力を養いたい。クラスメイトや地域の人々との連携を重視し、共に問題解決に取り組む姿勢を育てる。

・未来像を予測して計画を立てる力

繊維業の衰退や地域産業の課題を理解し、その解決策を考える力を身につける。学んだ内容をもとに、自分たちで考えたアイデアを形にする力を育み、地域の未来を支えるためにできることはないか考える。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

今までの高野口町について知ることで、様々な世代とこれからどのような町をつくりたいか一緒に考えることができる。

人権・文化を尊重する

今まで町を支えてくれた人がいるからこそ、今の生活がある。

・達成が期待されるSDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 7 パートナリーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 地域の産業の歴史や技術、現状についての基本的な知識を理解している。	① 地域を活性化するための具体的なアイデアを考え、グループで協力して計画を立て、効果的に発表できる。	① 工場見学やゲストティーチャーの話に積極的に参加し、質問や意見を自主的に考え、発言できる。
② ゲストティーチャーの話を聞き、繊維業に関する具体的な知識や役割について考えることができる。	② 繊維業の現状や課題について、自分なりに考察し、問題点やその改善策を考えられる。	② グループ活動において、自分の役割を理解し、責任を持って取り組むことができる。

5. 単元の指導計画（全11時間）

学習活動	学習への支援	評価
<p>1. 地域の産業を知る。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の産業や繊維業についての紹介映像や資料を使って概要を学ぶ。クラスで「地域の産業とは？」というテーマで話し合い、繊維産業について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が地域産業の現状を説明し、子どもたちが知っている地元の産業を話し合い、興味をもてるようにする。 	ア①
<p>2. 繊維産業の歴史を学ぶ。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 繊維業の始まりや発展について調べ、なぜ地域に根付いたのかを学ぶ。 繊維業の歴史的な背景や発展を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料館で展示されている内容を事前に紹介する。 	ア①
<p>3. 工場見学の準備をする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場見学の目的や注意点について確認し、見学で特に注目すべきポイント（製造過程や技術）を学ぶ。質問したいことを事前に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> どの部分に注目して見学するか、グループごとに話し合い、質問リストを作成する。 	イ②
<p>4. 工場見学を行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の繊維工場を見学し、製造過程や働く人の様子を理解する。 工場内を見学しながら、事前に考えた質問を工場のスタッフに投げかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 工場の方から直接話を聞く機会を持つ。 	ウ① ア②
<p>5. 工場見学の振り返りをする。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場見学で学んだことを整理し、理解を深める。見学で学んだことをノートにまとめ、グループごとに発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学の感想を共有し、学んだことをまとめる。特に印象に残ったことや、新しく知ったことを発表し合う。 	ウ②
<p>6. 資料館見学(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔の道具や展示物を通じて、過去から現在に至る産業の変化を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料館を訪れ、地域産業の歴史や技術の変遷を見学する。 	
<p>7. ゲストティーチャーの話を聞く(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現役の繊維業従事者から生の声を聞き、現場の課題ややりがいを理解する。 子どもたちがゲストに質問をし、繊維業の現場での経験や課題解決に向けた取り組みについて意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で繊維業に携わっているゲストティーチャーを招き、仕事の内容や地域産業の課題、将来の展望について話を聞く。 	ウ①
<p>8. アイデア出しと計画作り(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場見学やゲストティーチャーの話を踏まえ、どうすれば地域の繊維産業を活性化できるか、子どもたちでアイデアを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでアイデアを出し、それを基に行動計画を立てる。具体的に自分たちができることを考え、実行に移せるよう計画をまとめる。 	イ①
<p>9. 発表と振り返り(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとの発表を行い、他のグループの意見や計画についても意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループが考えた「地域産業を盛り上げるための計画」を発表し、クラス全体で共有する。発表後、指導全体の振り返りを行い、学びを再確認する。 	ウ②

今回の実践では、地域の繊維産業をテーマにした学びを通して、子どもたちが地域の歴史や産業について深く理解し、地域社会に関心を持つことを目的に取り組んだ。地域の工場見学や資料館訪問だけでなく、児童が主体的に行動し、アイデアを実現することにも重点を置いた。

成果

＜児童が主体的に取り組み、地域と関わる行動を実現した＞

授業の中で、子どもたちは「地域の人々にもっと繊維産業を知ってほしい」という思いをもち、自分たちにできることを模索した。地域の産業を盛り上げるために、商品企画やポスター作りを行った。その中で、ある児童が「パイル生地について街頭アンケートをしてみたい」と提案したことをきっかけに、アンケートを実施する計画を立てた。子どもたちは自分たちでアンケート項目を考え、ポスターを作成し、地域のお店に貼らせてもらうことで、実際にアンケートを収集した。ポスターにはQRコードを載せ、オンラインでアンケートを回答できる形式を取り入れたことも大きな成果だった。この活動を通じて、地域の人々と直接的な関わりを持ち、意見を聞くという貴重な体験ができた。子どもたちは、「アンケートで“パイル生地が地域の特産品だと知らなかった”という意見が多く、もっと発信する必要があると感じた」といった気づくことができた。このように、単なる学習に留まらず、地域社会の現場と直接つながる行動を実現できた点は、大きな成果だった。

＜授業参観での発表を通じた地域との連携＞

学びの成果を発表する場として授業参観を設定したが、子どもたちから「保護者だけではなく、地域の人にも聞いてほしい」という意見が上がった。その提案を受けて、地域の児童館にポスターを掲示し、授業参観の案内を行った。当日は、保護者だけでなく地域の方々も発表を聞きに来てくれた。ある児童は、「発表の後で、地域の人から“よく調べたね”と言われて、もっといろいろ発信したくなった」と話しており、地域住民との交流が子どもたちの自信とやる気を高めたことが感じられた。

反省

＜アンケートの実施方法とフォローアップ＞

街頭アンケートやQRコードを使った調査は児童にとって新鮮で積極的に取り組めたが、回収率や回答内容の分析には課題があった。一部の児童は「どのように結果をまとめればいいのかわからなかった」と話しており、調査の意義や結果を活かす方法についてももう少し丁寧に指導する必要があると感じた。アンケート結果をクラス全体でわかりやすく整理する時間を取り、分析や考察を深めていきたい。また、お店へのお願いを児童自身に行わせるべきだった。そうすることで、より地域との繋がりを実感させることができた。

＜授業参観のふりかえり＞

ポスターを使った広報活動は効果的だったが、地域住民の参加は想定よりも少なかったため、次回は地域の広報紙など、多様な手段を活用してより広く周知を図る必要がある。また、参観後の感想や意見を集める仕組みを整え、今後の学習に活かすことも必要となる。

＜今後に向けて＞

今回の地域産業学習を通じて、子どもたちは「地域とつながる」という貴重な経験をし、主体的に学び、行動する力を伸ばすことができた。アンケートの実施や地域への発信活動を通じて、子どもたちは地域社会の一員としての自覚を持つとともに、自分たちのアイデアを実現する喜びを感じる事ができた。

しかしながら、活動の準備や進行には課題もあり、地域住民の参画をさらに促進する工夫が必要だと感じた。

この学びが子どもたちにとって「地域社会と関わるきっかけ」となり、さらなる興味や行動に繋がることを期待している。地域と子どもたちが共に成長していけるような活動を、今後も計画していきたいと考えていきたい。